

令和5年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立羽咋高等学校

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組(改善策等)
1 確かな学力と進路実現の保障 探究型学習の推進やICTの効果的な活用など、授業改善を進めることで学びの質を向上させ、生徒の思考力や主体性等を育み、進路実現へとつなげる。	① 授業改善を進め、生徒の思考力や表現力などの学力の向上を主体性をもって協働して学ぶ態度の育成を図る。	授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっていると答えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	授業評価アンケートの結果 「よくあてはまる」 36.7% 「まあまああてはまる」 55.1% 計91.8% A	中間評価と比較し、「よくあてはまる」と回答した生徒は、4ポイント増加し、「まあまああてはまる」は減少、「A+B」では、増加した。今後も、講義形式の授業だけでなく、ChromebookなどICT機器の活用を促し、生徒が主体的に活動できるよう授業改善を行う。
	② 習熟度別授業等の改善を図り、個に応じたきめこまかな指導を充実する。 ・習熟度別授業の検証 ・学習意欲につながる授業改善 ・教科研究会等の充実 ・学力層に応じた指導方法の確立	習熟度別授業が学力向上に効果的であると答えている生徒の割合【「とても効果的である(I)」「ある程度効果的である(II)」】 A Iの割合が国数英3教科とも50%以上、またはI+IIの割合が3教科とも95%以上 B Iの割合が国数英のうち2教科で50%以上、またはI+IIの割合が3教科とも90%以上 C Iの割合が国数英のうち1教科で50%以上、またはI+IIの割合が3教科とも80%以上 D 上記のいずれにも該当しない	国語は2年・3年、数学は2・3年、英語は全年年で実施。 授業評価アンケートの結果 「Iとても効果がある」「IIある程度効果がある」 国語【 I (35.7%)、I + II (82.5%)】 数学【 I (50.0%)、I + II (87.5%)】 英語【 I (37.9%)、I + II (87.1%)】 C	中間評価と比較し、すべての教科で数値が下がっているが、数学に関しては、習熟度別授業に対する指導がとても効果的であると肯定的に捉えている生徒の割合が高くなっている。また、国語についてもとても効果的であると回答する数値が増加した。今後、さらに授業改善に励み、それぞれの学力層にあった効果的な指導について工夫する。
	③ 高い進路目標を達成させる。 ・授業・個人面談・進路学習等を通して進路意識の高揚を図る。 ・難関大学志望者に対する添削、補習指導など組織的指導を充実する。 ・習熟度別の補習や課題を工夫し、受験に対応した指導を行う。	ア: 難関10大学・国公立大学医学科合格者 3名以上 イ: 金沢大学合格者15名以上 ウ: 国公立大学合格者80名以上 以上ア～ウの項目のうち達成した項目が A 3項目 B 2項目 C 1項目 D なし	ア: 難関10大学合格者 6名 イ: 金沢大学合格者 19名 ウ: 国公立大学合格者 80名未満 B	上位層に対しては、早期から進路目標を明確にさせ、添削指導等を継続的に行ったことが功を奏した。一方で低学年次における家庭学習の指導が十分でなかったことが、課題としてあげられる。次年度に向けて、後期試験まであきらめないで受験に向かわせるための指導や支援体制の強化を図る。
	④ 学習習慣の確立 1・2年生全員の家庭学習時間が平日3時間以上、休日5時間以上となるように、個人面談・授業での予習指導・週課題で指導する。	1・2年生それぞれで、年間の平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合が、 A 65%以上 B 50%以上 C 35%以上 D 35%未満	平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合(12月調査) 1年生 7.0% D 2年生 4.9% D	1・2年生とも学習時間の絶対量の不足が、学力向上を阻んでいる要因である。学習習慣の確立のためには生活習慣の立て直しが急務である。面談やClassiを活用して個々の実態を把握した上で、学年団を中心に粘り強く生活指導に取り組む。
学校関係者評価委員会の評価	家庭学習時間が減少しないよう対応をお願いしたい。難関大学や金沢大学等の合格者数は、多くの方に注目されているので指導をよろしくお願いします。			
評価結果を踏まえた今後の改善方針	学習時間の絶対量が不足しないよう、面談やClassiを有効活用して粘り強く指導を続ける。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
2 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養 あいさつの励行から始まり、全ての教育活動を通して規範意識を高め、他者を思いやる心を持った、心身共に健康な生徒を育成する。	① 「あいさつの徹底」を通して規範意識を向上させ、自ら考え行動できる生徒を育成する。	学校評価アンケートで「①必ず挨拶する」「②だいたい挨拶をする」と回答する生徒の割合(①+②)が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	第2回学校評価アンケートにおいて、「必ず挨拶をする、だいたい挨拶をする」と答えた全校生徒の割合 94.3% B	2、3年生においては「必ず挨拶をする」生徒は増加したが、1年生において減少した。要因としては学校に慣れ挨拶の重要性への意識が低下したことが考えられる。「だいたい挨拶をする」を含めるとほとんどの生徒が挨拶をする習慣がついている為、挨拶することへの意識が低下しないように機会ごとに指導していきたいと考えている。
	② 生徒間のネットトラブル等を未然に防止するための方策として、いじめに関する校内研修会やスマホ・ケータイ安全教室などを実施している。	学校評価アンケートにおいて、いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を常に心がけ、実践している教員の割合が A 95%以上 B 80%以上 C 65%以上 D 65%未満	第2回学校評価アンケートにおいて、「おおむね実施している」と答えた教員の割合 97.0% A	ほとんどの教員がいじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策について心がけて実践している。日頃の生徒の様子で少しでも気になることがあれば情報共有を徹底し、生徒から話を聞いたり場合によっては指導をしたりする機会を設けられるようにしていきたい。
	③ 文武両道の実践のため、学習時間の確保と部活動の時間・内容を充実させ、運動部は北信越大会以上、文化部は北陸大会以上を目指す。	北信越大会・北陸大会以上の大会に出場した部活動の数が A 12部以上 B 9部～11部 C 7部～8部 D 6部以下	運動部が7部(北信越大会以上)、文化部が1部(北陸大会)出場した。 C	運動部では全国総体に剣道部の女子団体、男女個人1名ずつが出場し、全国選抜にはなぎなた部が出場を決定している。文化部では吹奏楽部が北陸吹奏楽コンクールに出場を果たした。今後も北信越新人での活躍や全国選抜に向けて予選を通過する部活動がひとつでも多くなるように努力していきたい。
	④ 基本的な生活習慣の確立を目指し、保健だよりや保健委員会の活動を通して、睡眠についての指導・啓発を行い、睡眠及び生活習慣の改善を図る。	保健・相談課のアンケートで十分な睡眠がとれていると答えた生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	第2回学校評価アンケートにおいて、「十分な睡眠がとれている、おおむね取れている」と答えた生徒の割合 A	生徒は十分な睡眠がとれているようである。今後も同様のアンケートを実施し、改善の必要があれば検討する。

令和5年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立羽咋高等学校

	⑤ 全校生徒に呼びかけ、個人で行うボランティア活動を充実させる。ボランティアの機会を増やし校内外にも積極的に活動を広げる。	ボランティア活動を複数回実施した生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	12月の段階で集計したところ、ボランティア活動を複数回実施した割合 73.0% B	2学期以降、生徒会執行部が全校放送やクラスで声掛けをしたことで、多くの生徒が複数回ボランティア活動に取り組むことができた。今後も声掛けを継続していくことでボランティア活動への参加者を増加させたい。
	⑥ 『図書だより』、『図書館報』および図書委員会の活動を通して、新着図書の紹介や読書の楽しさを啓発し、読書習慣を身につけさせる。	生徒一人当たりの貸出数が A 4冊以上 B 3冊 C 2冊 D 2冊未満	生徒一人当たりの貸出数は2.9冊(生徒数455人)であった。 C	前年度の調査と比較すると、2学期までは授業時の利用呼びかけも影響し、貸し出し数は増加していた。3学期は、震災の影響等もあって貸し出し数は激減した。来年度も引き続き、図書委員会の活動を中心に、生徒の自主的な読書活動を支援していきたい。
	⑦ 体育の授業における体づくり運動や年間を通しての補強運動、チーム練習を主体的に取り組みせ、体力の向上を図る。	スポーツテストにおける持久走の結果で、全学年男女別の6部門中、全国平均を上回った部門が A 4部門以上 B 2部門以上 C 1部門 D 0部門	5月実施の記録から、6部門中で全国平均を上回った部門は0であった。 D	5月中に計測した結果をもとに比較した結果、全国平均を上回った部門はなく、基礎体力の強化が本校の大きな課題である。9月から1カ月半の期間、マラソンの練習を重ねたが、継続的に授業の中で持久力を伸ばすような運動を取り入れて体力アップをはかる必要があると考える。
学校関係者評価委員会の評価	基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養には、家庭の協力が必要である。スポーツテストに向けた取り組みを強化してほしい。			
評価結果を踏まえた今後の改善方針	保護者を充実させ、保護者との連絡を密にする。スポーツテストに向けた生徒への呼びかけ、目標値の設定を行いたい。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
3 地域から信頼される学校づくり 「未来塾」やボランティア活動を通して地域とつながり、医療や教育の分野をはじめ地域に貢献できる人材を育成し、地域から信頼される学校づくりに努める。	① 授業公開やオープンスクールを実施することで、中学生・保護者・地域に本校の特色を理解してもらえるように努める。	体験入学、学校公開の参加者が、 A 400人以上 B 350人以上 C 300人以上 D 300人未満	7月までの学校公開、体験入学、11月の学校公開を全てを合わせると、400人に届かなかった。 B	11月の学校公開の案内を中学校、保護者、地域の人に届け、特色ある取り組みに参加したいという気持ちが湧くよう、できるだけ細かい情報を載せたが、結果として目標とするA評価(400人以上)には至らなかった。生徒の生の声を前面に押し出した、生き生きとした内容が掲載された広告を作成するため、日頃から取材をする必要がある。
	② 学校説明会、地区別高校説明会、未来塾のPR等の実施に関して、内容・方法に工夫改善を加え、今まで以上に、地域住民、中学生や保護者に本校を理解してもらえるよう努める。	一般志願倍率が A 1.1倍以上 B 1.05倍以上 C 1.0倍以上 D 1.0倍未満	一般志願倍率は、1.0倍未満であった。 D	学校説明会を随時行うとともに、9月末から10月にかけては保護者向けの地区別説明会を行った。今後も継続的に本校の魅力をアピールする。
	③ 保護者や外部に向けて月毎の行事予定表や実施した行事・部活動報告など、最新の情報をこまめに迅速に提供することに努め、本校の教育活動への関心・理解を深める。	保護者アンケートにおいて本校のホームページが「①役立つ」「②やや役立つ」と答えた保護者の割合(①+②の合計)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者アンケートにおいて本校のホームページが「①役立つ」「②おおむね役立つ」と答えた保護者の割合 83.4% B	ホームページの更新は迅速に行っている。今年度は表紙のページを一新したり、部活動の活動報告がすぐ見られるようになど工夫した。今後も保護者に関心を持ってもらえるホームページ作りに努めたい。
学校関係者評価委員会の評価	学校公開への参加者が増加する仕掛けを考えてほしい。地域への効果的なPRも願います。			
評価結果を踏まえた今後の改善方針	中学生、保護者が、本校に興味・関心を抱くホームページを作成し、情報を発信する。本校の魅力が増すよう多くの仕掛けを考え、実践し、地域に効果的にPRする。			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の扱い(改善策等)
4 教職員の多忙化改善 教員どうしの協働する力を大切にし、業務の効率化を図ることで時間外勤務の縮減に努め、より良い教育活動の実践を目指す。	① 平日は19:30までに退校するために、1日の業務計画を立てる。部活動は年間計画、月別計画、実施表を作成して、適切な休養日を確保するよう努める。業務内容の精選を図り、継続的に業務の効率化に努める。	教員の時間外勤務時間調査において、月平均の時間外勤務時間が A 35時間以下 B 35～40時間 C 40～45時間 D 45時間超	4～3月平均 38.9時間 B	4～3月の平均では昨年度より1.5時間短くなっているものの、40時間を超える月が多く、次年度に向けて一層の業務効率化が求められる。業務内容の精選を継続的に検討するとともに、教育の質を落とすことのないよう留意する。
学校関係者評価委員会の評価	多忙化改善の取り組みを継続し、時間外勤務時間の平均を大きく超える教員がいた場合は個人面談等で対応願いたい。			
評価結果を踏まえた今後の改善方針	教育の質を落とすことなく業務の効率化を進め、働き方改革を推進する。			